





414  
A1017



レオン、セル、選著、業、製産、及、商業總會

（エンセイ、ジエチラール）

佈朗西第一共和政府第十一年雪月三日即千八百

二年十二月廿三日商法會社所ヲ改設セシ所ノ公達

ヲ以テ仕巴里府内務卿ノ側ニ商業總會（コンセイ、ジ

エチラール、ジエ、コンノルス）ヲ設置シ其會々ハ諸商

法會議所ヨリ呈出シタル候補者（カンシユル）ノ姓名

書ニ就キ、業「コンシユル」官之レヲ任命シタリ

千八百、月二十六日ノ勅令ヲ以テ製産總會（コ

ンセイ、ジエチラール、デ、マニユフマクキエール）ヲ創

大正十一年四月  
限侯爵寄贈

太  
文  
宮



設シ千八百十九年一月廿八日ノ命令ヲ以テ農業總  
會エチラーレル、ダグリキユルラユールヲ  
創設シタ

千八百十九年八月廿三日、千八百二十五年二月九日  
及ヒ千八百三十一年四月廿九日ノ命令ヲ以テ前記  
三總會 編制ヲ改正シタリ

此改正ノ命令ニ依レハ三總會ハ毎年一回ノ會議ヲ  
開クトシ同一ノ議件ニ付各總會各格ニ其會議ヲ  
為スヘキト定メタリ但該當處ノ許可ヲ以テ諸總  
會ノ會費ヲ以テ成立シタル連合委員コンニシラン、

ミキスト)ヲ會合スルヲ以テトス總會ノ職掌ハ第  
三條ニ於テ定ムルトコロニシテ其會費ノ許諾ニ係  
ル事件ニ付可否ヲ述ヘ可決ノトキハ之ヲ上司ニ建  
議シ及ヒ該當ノ卿ヨリ下問シタル議件ニ付意見ヲ  
述フルニアリトス  
同上千八百三十一年ノ命令ヲ以テ商務卿ノ側ニ高  
法高等議會ヲ設置シ輸出入稅則及ヒ農業、商業、製産  
ノ三總會 呈出シタル建議其他凡ソ商事ニ関ス  
ル立法ニ付諮詢スヘキモノトセリ又第五條終  
リノ項ニヨレ 該當卿ノ請求ニ依テハ商業、製産上



ノ事實ニ付要用ト認ムルトコロノ口陳審査ヲ為ス  
ノ權  
高業總會ノ員ハ商法會議所ノ會員中若シクハ商法  
會議所ヲ有スル區域内ノ地方ニ於テ該會議所ヨリ  
之ヲ撰出ス  
製産總會會員ハ其一部ハ製産工術諮問會議所之レ  
ヲ選任シ他ノ一部ハ商務卿之レヲ選任ス  
農業總會會員ハ悉皆農務卿之レヲ選任ス  
高法高等議會ハ國王ヨリ任中ニルトコロ會員十  
二名ト商業、農業、製産、三總會頭トヲ以テ組織ス

此編制ハ千八百三十二年及千八百三十二年ノ令  
令ニ依リシク改正セラレタル所アレモ千八百五  
十年迄ハ續行セラレタリ  
然レ氏商業、工業上ノ事ニ付キ毎年集會スルヲ必要  
トスル程ノ議件モ無カルヘシト見ヘ前条諸會ノ集  
會シタルハ纔ニ毎四年ニテアリシ  
高法高等議會ハ其之ヲ設置シタルヤ直チニ其事務  
ヲ始行シ而テ其出版ニ係ル緊要書類中外國產  
ノ輸出入ニ定メラレタル諸業止ニ關スル千八百三  
十四年ノ審査ト題スルモノ取モ有益ナルモノトス

太  
政  
官



此審查ハ業止ノ一般ヨリ論シ磁器、鍍器、硝子器、毛糸  
及ヒ毛織物、木綿糸及ヒ木綿織物ニ関スル業止ヲ殊  
更ニ研究シ以テ諸吟味、報告其他審査ノ目的ニ関  
スル諸書類ヲ蒐集シ三冊トナセルモノニシテ此審  
査ノ事ニ付テハ貴重スヘキ書類ノ多クヲ含有スル  
モノトス(審査ノ部ヲ参考スヘシ)商業、農業、製産三總  
會刊行書類ノ有益トナタルハ千八百三十七年以  
來、フニシテ該會議事ヲ報告ヲ世ニ公ニシタルモ  
又此時ナリキ  
三總會ノ議事ニ係リタル魚、糖、鍍類

家畜、毛糸及ヒ毛織物、製造標、職工養老貯金、農業金  
及ヒ凶人ノ仕事ナリトス此等諸般ノ議件ヲ論評シ  
タル實ニ深遠ニ其議事ノ報告ニ至テハ頗ル奇ニシ  
テ之ヲ参考スルニ利益少ナカラサレ氏哀シイカナ  
輸出入税目及ヒ自由貿易ニ関スル議件ニ就テハ三  
總會皆常ニ保護税法ヲ暴尊頑信シタリキ  
製産總會ハ殆ント皆自由貿易ノ讎敵ニシテ即チ保  
護税法ヲ維持スルニ於テ利益ヲ受ルトコロ、諸製  
造人ヨリ阻礙セラル、ノミナラス商業總會ノ如キ  
モ實ニ佛朗西ノ高利ヲ顯謀スルモノト云フヘカラ



ス諸商法會議所ノ存在スル地方ハ同時ニ製産ト高  
業トヲ主トスル都<sup>市</sup>ナルカ故ニ其會負タル諸製造  
人ト諸商人トヨリ成立スルモノナレハ該會議所ノ  
多クハ商業總會へ代理委員トシテ差出スニ實ニ製  
産ノ利益ノミヲ顯謀スル會負ヲ以テシタルノ結果  
ヲ来シタリキ

然レ氏此ノ不利アルニ拘ハラズ諸集會ニ於テハ現  
令佛朗西ニ於テ実行スル所ノ關稅法ニ反對スルノ  
會負アリ頗ル深密ナル議論アリテ貴重スヘキノ事  
實并ニ論旨ヲ發出シタルハ自由貿易ノ主義ニ取ッ

テハ決レテ空勞トナラサルヘシ

千八百五十年二月六日ノ公達ヲ以テ農業製産及  
商業ノ三總會ヲ招集シ之ヲ改判シタリ此ノ勅令ニ  
依レハ三總會ヲ合併シ以テ單一ナル一大總會ヲ  
制シ其會負ハ皆合議スルモノトシ又此總會ヲ區分  
シテ三總會即チ農業總會製産總會及商業總會ト  
ナセリ

千八百五十一年三月二十日ノ法律此ノ法律ノ明文  
ニ付テハ農業理論會ノ部ヲ參看スヘシヲ以テ農  
會議所ヲ創設シ此ノ會議所ニ任タルニ農業總會云



負ヲ撰任スルヲ以テセリ此他商業及ヒ製産ノ二總會會負ハ千八百三十一年ノ命令ニ從ヒ商法會議所及ヒ製産及ヒ工術顧問會議所各々之ヲ撰任セリ今千八百五十一年三月廿日ノ法律ヲ改正シ以テ農業顧問會議所及ヒ農業總會ヲ編制シタル千八百五十二年三月廿五日ノ勅令ヲ爰ニ掲記スレハ左ノ如シ

三千九百零九号

農業顧問會議所及ヒ農業總會 編制ニ付キ

勅令

千八百五十二年三月廿五日

佛朗西共和國大統領タル路易那破ハ

内務、農務及ヒ商務卿ノ上申ニ依リ

千八百五十一年三月廿日ノ法律ヲ參看シ

此法律ハ其主義ニ於テ農業ノ代議公會設置ニ就キ

一般ノ冀望スルトコロヲ満足セシメタルモ之レヲ

實際ニ施行スルニ當リ委負撰舉ノ方法上及ヒ諸農

業會社及ヒ諸農業理論會ノ行為ノ自由ニ与フルト

コロノ抵觸上非常ノ困難ヲ生スルノ理由アルニヨ

リ



農業顧問會議所ヲシテ其擔任スル公益ノ要スル  
丈屢々集會スルヲ得セシメンタメ農業諸事業ノ  
場所ト農業顧問會議所ノ場所トヲ接近セシメ以テ  
農業代議士ノ集會ヲ容易ナラシメ且其費用ヲ減省  
セシムルハ農業上ニ於テ最モ緊要ナルヲナルノ理  
由アルニヨリ  
農業代議公會ノ編制ヲ施行スルハ最モ急務ナルト  
ナリト認め  
左ノ諸事ヲ決定セリ

第一章

農業顧問會議所

第一條 農業顧問會議所ハ各郡區ニ一ヶ所ヲ設置

スヘシ

第二條 農業顧問會議所ハ其存在スル郡若クハ區

内ノ町村ト同數ノ會員ヲ以テ組織スルモ  
ノトス但其數ハ六名ヨリ少ナカラサルヲ  
要ス

第三條 府知事縣令ハ各町村ニ於テ其所村内ニ住

居ヲ定メ若クハ土地ヲ所有スル豪農一名  
ヲ選舉シ農業顧問會議所ノ會員トナスヘ



シ  
農業顧問會議所會負ハ其任期ヲ三ケ年ト  
シ再選セラル、ヲ得ヘシ

第四條  
府知事縣令ハ首府ニ於テ、郡區長ハ郡區ニ  
於テ各其農業顧問會議所ノ議長タルヘシ  
府知事縣令若クハ郡區長ニ於テ不參ノ并  
又ハ差向ノ并ハ出席會員投票ノ多数ヲ以  
テ其日限リノ副議長ヲ選舉シ之レニ代ラ  
シムヘシ

書記ハ府知事縣令若クハ郡區長之レヲ任

命スヘシ

第五條  
府知事縣令ハ毎年其府縣内ノ農業顧問會  
議所通常會ノ期日并ニ期限ヲ定メ其議案  
ヲ草定シ之レヲ布達スヘシ

農業顧問會議所ハ各年通常會ノ外府知事  
縣令ノ招集ニ依リ通常會(臨時會)ヲ開ク  
ヲ得ヘシ

第六條  
農業顧問會議所ハ農業ニ関スル事件ニ付  
其意見ヲ政府ニ上陳スルモノトス政府ハ  
農業上ノ利益ニ関シ就中間稅、關稅、入市稅、



用水ノ取締及ヒ支用ニ関スル法制上ノ改正ニ付キ會議所ノ意見ヲ問フヲ得ヘシ  
政府ハ又諸市場及ヒ定期大市場ノ開設中央政府及ヒ地方政府ノ補助金ノ支途地方農業學校及ヒ勸業試驗場ノ開設ニ付會議所ノ意見ヲ問フヲ得ヘシ  
農業顧問會議所ハ其郡區ノ農業統計ヲ調査スルモノトス

第七條 農業顧問會議所ハ府知事縣令及ヒ郡區長トハ直ニ往復シ内務農務及ヒ商務卿トハ

府知事縣令ノ手ヲ經テ往復スルモノトス  
第八條 府知事縣令及ヒ郡區長ハ各其府縣或ハ其郡區ノ首府ニ於テ議場ニ適當ナル場所一ヶ所ヲ備フヘシ

農業顧問會議所ノ豫算ハ府知事縣令ノ加印ヲ取リ之ヲ農業總會ニ差出スヘシ而シテ此ノ豫算ハ地方税ニ屬スルモノニシテ其經常支出第七科ニ編入スヘキモノトス  
第九條 農業總監督ハ議場ニ出席スルヲ得何時ニテモ其意見ヲ陳述スルヲ得ヘシ



第十條 農業顧問會議所ハ公益ヲ設置ト認ムヘキ  
モノナリ故ニ法律上ノ手續ヲ經許可ヲ得  
ル以上ハ諸物件ヲ購買シ之レヲ受領シ之  
レヲ所有シ又之レヲ賣讓スルヲ得ヘシ

第二章

農業總會

第十一條 農業<sup>内務</sup>農業及ヒ商務卿ノ側ニ一ツノ農業  
總會ヲ設置シ其會員ハ百名トシ其内八十  
六名ハ諸農業顧問會議所會員中ヨリ選挙  
シ其他ノ十四名ハ他ヨリ選挙スヘキモノ

トス

第十二條 内務農務及ヒ商務卿ハ毎年農業總會會  
員ヲ選任シ此會員ハ常ニ再選セラル、ヲ  
得ヘキモノトス該當卿ハ總會ノ議長トナ  
リ副議長二名ヲ選任スヘシ  
該當卿ハ總會ノ外ヨリ書記ヲ選任シ之レ  
ヲシテ議事ノ報告ヲ作ラシムヘシ

第十三條 農業總會ハ毎年一ツノ通常會ヲ開キ其  
期限ハ一ヶ月以内トス

第十四條 該當卿ヨリ選任スル政府ノ委員ハ農業



總會、議場ニ出席シ議事ニ與カルヘシ  
該委員ハ何時ニテモ其意見ヲ陳述スルヲ  
得諸委員會議ニ出席スルヲ得ヘシ  
第十五條 農業總會ハ農業顧問會議所ニ向テ意見  
ヲ問ハレタルモノニシテ公益ニ関スル諸  
般ノ議件ハ之レヲ議スルヲ得ヘシ  
農業總會ハ又該當卿ヨリ下問スル諸般ノ  
議件ニ付テハ其意見ヲ陳フヘシ  
第十六條 此ノ勅令ニ抵触スル統テノ法律、命令及  
ヒ決定ハ廢棄ニ属スルモトス

第十七條 此ノ勅令ハ内務農務及ヒ商務卿之レヲ  
執行スヘシ  
千八百五十二年三月二十五日キユイルリ一宮殿ニ於  
テス  
ルイ、ナポレヲン 手署  
内務農務及商務卿  
エフドベルシニイ一奉  
以上  
却說前條ニ記述スル大總會ハ往時ノ諸總會ト同  
一ノ職掌ヲ有スルモノニシテ商務卿ヨリ差出スト



コロノ議案ニ付テハ其意見ヲ陳述シ其會負ヨリ差  
出ストコロノ議件ニ付テハ可否ヲ議シ若シ之レヲ  
可決スル片ハ之レヲ上申シ其顯謀レテザレテスル大利エシテハ一即  
チ農業、製産又ハ商業ニ関スル諸般ノ議件ヲ討議ス  
レモノトス

今爰ニ是レヲ公言スルハ悲難スヘキナレ氏千ハ  
百五十一年ノ會議ハ猶ホ往時ノ諸會議ノ如ク自由  
貿易家ノ主義ニハ更ニ勝利ヲ与ヘサリキ農業、製産  
及チ商業ノ諸總會ハ自由ノ思考ニ向テ更ニ何レノ  
進歩モナサ、リシノミナラス古今未嘗有ノ熱心ヲ

以テ經濟学ヲ追捕シ刺サヘ或ル甚々少数ノ會負ハ  
經濟学ヲシテ自由貿易ノ點ニ付テハ教普セサラシ  
ムル様トノ冀望ヲ發スルヲ敢テシタリキ  
然リト虽モ經濟学ハ諸總會ノ設置上ニ於テ信用ヲ  
置カサルヲ得ス今日ニ於テハ甚々深ク結根シタル  
或ル利益ヲ説伏スルノ望ミ甚々少ナケレ氏議論ハ  
早晚公衆ノ眼ヲ開クニ至ルヘシ自由貿易ノ讎敵ハ  
實ニ守旧否ナ退歩ノ甚タシキ思想ヲ以テ其根據ト  
ナスモノナレハ後日必ス道理ノ打勝ツトコロトナ  
リ輿論ヲシテ彼等自ラノ教ヘニ抵抗反對セシムル



ニ至ラン且ツ彼等ノ執拗ナル襲撃ハ時々経済学ヲ  
シテ名譽トモ云フヘキ防禦ノ後彼等ヲ鏖撃セシム  
ルノ機會ヲ得セシメタリキ故ニ人ハ冀望セサルヘ  
カラス千八百五十一年ノ如キ勝利ヲ屢々得タラン  
ニハ保護主義ヲシテ遂ニ敗滅セシムルニ至ラン  
今終リニ臨ンテ之レヲ略言スレハ農業製産及ヒ高  
業總會ハ一ノ善良有益ナル設置ニシテ其職務タル  
國民ヲシテ其物質上ノ利益ヲ討論計籌スルトコロ  
ヲ知ラシムルニアリ唯其不幸ナルトコロハ経済学

ノ普及甚々纏カナル佛朗西ヲ全々正直ニ顯ス是レ  
ナリ總會ノ是ノ不徳ヲ失フハ佛朗西國自ラ是ノ點  
ニ於テ改正シタル日ニ於テナラテハアラサルヘシ

レヲン、セイ誌

宇川盛三郎譯



商法會議所、製産及ヒ工術諮問會議所ノ記事  
商法會議所ハ諸商人若クハ旧商人ノ集會所ニ  
シテ商業及ヒ製産ニ関スル諸議件ニ付其意見  
ヲ陳述スルモノトス

商法會議所ハ中央集權ノ最モ甚シキ國ニ於テ  
ハ就中要用ナルモノニシテ其政府ハ細密ナル  
數多ノ職掌ヲ有スルカ故其決定スヘキ種々ノ  
特別ナル議件ニ付テハ自然光明ヲ得ルヲ勉メ  
サル可カラズ商法會議所ノ重要ナル職務ハ諸



相場所ノ創設ニ付、諸為替場若クハ諸仲買所ノ  
設立ニ付、諸関稅ニ付、諸銀行、割引銀行及ヒ佛朗  
西銀行支店ノ創設ニ付、及ヒ商業ニ関スル地方  
ノ諸規則議案ニ付、政府ニ向テ其意見ヲ述ル者  
ナリ故ニ商法會議所ノ成立ハ中央政府ヨリ各  
地方ノ特別ナル事業ニ関涉スル以上ハ最モ必  
要ナルモノトス且ツ此等種類ノ設置ヲ有スル  
國ハ唯ニ佛朗西ノミナラス尚ホ且ツ種々ノ点  
ニ於テモ此等ノ有益ナルコトハ既ニ世人ノ認  
識スル所ナリ凡ソ此等ノ設置ニシテ自由主義

ヲ以テ轉運スルトキハ工業ニ對シ商業ニ對シ  
頗ル浩大ノ利益ヲ與フ可シ彼ノ英國政府ヲシ  
テ遂ニ其理財法ヲ變換セシメタル強黨ハメン  
チエストル府商法會議所實ニ是ガ襁褓タリシ  
コトハ決シテ忘ル可カラザルナリ

商法會議所并ニ製産及ヒ工術諮問會議所ノ法  
制ハ佛朗西國ニ於テ輒近迄ハ佛朗西第一共和  
政府第十一年暑月十日ノ公達及ヒ千八百三十  
二年六月十六日ノ命令ニ據ル者ニシテ更ニ千  
八百五十一年九月三日ノ命令ヲ以テ商法會議



所組織ノ編制ヲ改正シタレ其大ナル部分ニ至テハ尚ホ旧來ノ法規ヲ再用シタリキ今爰ニ千八百五十一年九月三日ノ命令ヲ掲記スレハ左ノ如シ

商法會議所ノ編制ニ付千八百五十一年九月三日ノ勅令

佛朗西共和國ノ大統領ハ

農商務卿ノ上申ニ依リ

佛朗西第一共和政府第九年風月二十八日、千八百二十年七月二十三日、千八百三十八年七月十

四日及ヒ千八百四十四年四月二十五日ノ法律ト佛朗西第一共和政府第十一年雪月三日、千八百六年九月二十三日、千八百三十二年六月十六日及ヒ千八百四十八年六月十九日ノ公達、勅令及ヒ命令トヲ參觀シ  
内閣ト討論決議ノ上

左ノ如ク決定ス

第一條 商法會議所會員ハ會議所々在地方ニ於テ五ヶ年以來營業稅ヲ拂フ處ノ商人、五ヶ年間船長ノ職ヲ奉シ少クモ二ヶ年以來會



議所々在地方ニ住居ヲ定ムル遠海航行船長  
及ヒ沿海航行船長ノ撰舉スルモノトス  
被撰舉人名簿ハ各町村ニ於テ千八百四十八  
年八月二十八日ノ法律ヲ以テ改正シタル商  
法第六百十八條以下ノ法規ニ依リ調製スヘ  
シ

第二條 撰舉會ハ商法會議所々在ノ都市及ヒ  
其所在地方中ニ於テ府知事縣令ヨリ指定ス  
ル他ノ町村ニ於テ之ヲ行フモノトシ府知事  
縣令ハ之ヲ數箇所ニ區分スルヲ得ヘキモノ

トス撰舉會ハ府知事縣令ヨリ招集スル者ニ  
シテ各地ノ便宜ニ依リ府知事縣令郡區長戸  
長又ハ其代理人之レガ議長トナリ出席撰舉  
人中ヨリ最モ年長ノ者二名及ヒ最モ年少ノ  
者二名合セテ四名ヲ撰舉シ以テ之ヲ撰舉會  
事務局トス斯ク組織サレタル所ノ事務局ハ  
撰舉人中ニ於テ一名ヲ撰之ヲ書記トナシ  
撰舉中發コル諸般ノ議件ヲ判決スヘシ但シ  
撰舉サレタル候補ノ當否ニ關スル議件ハ是  
ヲ取リ除ク



投票ノ総計算ハ商法會議所々在ノ都市ニ於  
テ之ヲ行フヘシ

第三條 被撰舉人タルヲ得ルモノ左ノ如シ

第一項 少クモ三十歳ノ年齢ヲ有スル  
諸撰舉人

第二項 商法會議所々在地方ニ住居ヲ  
定メ少クモ三十歳ノ年齢ヲ有スルト  
コロノ旧商人、諸製産人及ヒ遠海航行  
船長

然レドモ第二項ニ相當スル被撰舉人

ノ数ハ決シテ商法會議所會負全数ノ  
三分ノ一ヲ越ユヘカラサルモノトス

第四條 一ノ集合ノ名ヲ以テ會社ヲ結ブトコ  
ロノ者ハ同時ニ一商法會議所ノ會負タルヲ  
得ス

一ノ集合ノ名ヲ以テ會社ヲ結フトコロノ者  
同時ニ當撰ノ時ハ投票多数ノ者若シ投票同  
数ノ時ハ年長ノ者ヲ當撰トスヘシ

第五條 撰舉ハ商法會議所々在地方全体ノ候  
補ノ名簿ニ付匿名投票ヲ以テ之ヲ執行シ投



票多数ノ者ヲ以テ当撰トス  
撰舉ハ商法會議所々在地方撰舉人四分ノ一  
以上ノ投票アルニ非サレハ其功ナキモノト  
ス  
若シ撰舉人四分ノ一ノ投票モナキトキハ其  
投票ハ無効ニ属シ商法會議所會負ハ府知事  
縣令若クハ郡區長ヲ以テ議長トナシ商法會  
議所ノ現負會議所々在地方ニアル商法裁判  
所ノ法官及ヒ職人勸解所々負ヲ以テ組織ス  
ルトコロノ一議會ニ於テ之ヲ任命スヘシ

第六條 商法會議所會負ノ數ハ其設置ノ名稱  
ニ據リ若クハ向來ノ勅令ニ依リ定ムルモノ  
ニシテ九人ヨリ少ナカラス二十一人ヨリ多  
カラサルモノトス

第七條 商法會議所會負ノ任期ハ六ヶ年トシ  
毎二ヶ年其三分ノ一ヲ改撰ス但シ初度ノ全  
負撰舉ニ次クトコロノ兩度ノ撰舉ニ於テ退  
負ノ順序ハ凡テ抽籤ニ依ルヘシ  
會議所ニ於テ認可セラルヘキ正統ノ趣意ナ  
クシテ六ヶ月間招集ニ應セサル處ノ會負ハ



輒チ退負ト見做シ最近ノ撰舉會ニ於テ之ヲ  
改撰スヘシ

不測ノ事變ニ依リ闕負ヲ生スルトキハ尚ホ  
最近ノ撰舉會ニ於テ之ヲ補撰シ其當撰者ノ  
任命ハ則チ前負定期中ノ殘期ヲ補フマテノ  
トトス

第八條 滿期退任者ハ永久被撰ノ權ヲ有スル  
モノトス

第九條 商法會議所ハ毎年其會負中ヨリ議長  
一名ヲ撰舉シ時宜ニ依リテハ副議長一名ヲ

モ撰舉シ又書記兼出納掛一名若クハ書記一  
名及ヒ出納掛一名ヲ撰舉スヘシ但シ此撰舉  
ハ必ス會負投票ノ過半数ニ依ルモノトス  
地方ノ便宜ニ依リ府知事縣令及ヒ郡區長ハ  
當然商法會議所ノ會負タルヘキモノニシテ  
其出席スルトキハ輒チ會議ノ議長タルヘシ  
第十條 商法會議所ハ其所在地方内ニ於テ通信  
負ヲ撰任スルヲ得ヘシ但シ其數ハ會議所會  
負ノ數ヲ超過スヘカラス  
通信負ハ會議所ノ議事ニ出席シ其意見ヲ述



フルヲ得ルト雖モ徒ダニ参考ニ止マツテ決  
議ノ数ニ預ルヲ得ス

第十一條 商法會議所ノ職掌ハ第一工業及ヒ  
商業ニ関スル事實及ヒ利益ニ付政府ヨリ下  
問ヲ受クルトキハ之ニ應答シ且ツ其意見ヲ  
述ルモノトシ第二左ノ諸件ニ付其見込ヲ関  
申スルモノトス

工業及ヒ商業ノ繁榮ヲ増殖スルノ方法  
諸関税及ヒ諸入市税其他商業ニ関スル諸般  
ノ法制上ニ行フヘキ改良

海港ニ関スル諸事業、河川ノ運輸、郵便、鐵道等  
ノ如キ商業若クハ工業ニ関スル諸事業ノ執  
行及ヒ諸公署ノ編制

第十二條 商法會議所ハ殊更ニ左ノ諸件ニ付  
下問ヲ受ケ其意見ヲ上陳スルモノトス  
商業ニ関スル法制釐革ノ議案

商法會議所ノ設立及ヒ規則  
諸相場所ノ開設及ヒ諸仲買所ノ設立  
諸関税  
商用ノ為メニ設ケタル通運其他ノ定税及ヒ



規則

諸商用、海上仲買、貨物保險仲買、諸公債仲買、  
定税及ヒ規則

商法會議所々在地方中ニ於テ商業裁判所ノ  
開設

諸銀行、割引銀行及ヒ佛朗西銀行支店ノ設立  
商業ニ関スル地方工事ノ議按

商業若クハ工業ニ付地方規則ノ議按

第十三條 一都市ニ於テ同時ニ一商法會議所  
及ヒ一相場所アルトキハ該商法會議所ニ於

テ該相場所ヲ管理ス但シ該相場所ニ関スル  
戸長ノ權利及ヒ相場集會所ニ於ケル地方警  
察ノ權利ハ之ヲ犯サルモノトス

第十四條 商用ノ為メニ開設シタル設置譬ヘ  
ハ救船倉庫、貨物市庫、生絲重量改所、商業上及  
ヒ工業上ノ知識ヲ擴張セン為メノ目的タル  
公教學校等ノ如キモノニシテ諸商人ノ特別  
ナル賦課金ヲ以テ設立シタルモノハ商法會  
議所之ヲ管理スヘシ  
是等ノ設置ニシテ寄付金、贈遺金若クハ其他



ノモノヲ以テ開設シタル者モ亦指金者及ヒ  
贈遺者ノ望ミニ依テハ商法會議所之ヲ管理  
スルヲ得ヘシ

官府ニ於テ開設シタル同種ノ設置ノ管理モ  
亦之ヲ商法會議所ニ委任スルヲ得ヘシ

第十五條 商法會議所ハ農商務卿ト直ニ往復  
シ他ノ諸卿ニ向テ奉呈スヘキ義務アルトコ  
ロノ意見又ハ乞願ヲハ當然若クハ他ヨリノ  
依頼ニヨリ直ニ農商務卿ヘ陳呈スヘシ

第十六條 公ケナル禮儀ノ場所ニ於テハ商法

會議所直ニ商業裁判所ノ次ニ位スヘシ

第十七條 毎年前六ヶ月間ニ商法會議所ハ其  
府知事縣令ニ向テ前年收入支出ノ報告及ヒ  
次年收入支出豫算ノ議案ヲ呈出スヘシ  
府知事縣令ハ此報告及ヒ豫算ニ其觀察ト其  
一個ノ意見トヲ附シ之ヲ農商務卿ニ呈出シ  
農商務卿ハ時宜ニ依リ之ヲ認可スヘシ  
此條ノ法規ハ諸營業稅ヲ拂フトコロノ者ノ  
賦課金ヨリ生スル商法會議所ノ經常收入支  
出ト商用ノ為メニ設ケタル諸設立ニシテ其



管理ヲ商法會議所ニ委任シタルモノニ特別ナル收入支出トニ適用スヘキモノトス

第十八條 何レノ商法會議所ニテモ官府ノ規則ニ適ヒタル勅令アルニアラサレハ之ヲ設立スルヲ得ス

第十九條 現今既立スルトコロ及ヒ将来ニ於テ設立スヘキトコロノ商法會議所ハ公益ノ設置ナルモノトス

第二十條 此勅令發布後六ヶ月以内ニ諸商法會議所各改撰ヲ行フヘシ

第二十一條 商法會議所ニ関スル往時ノ諸法規ニシテ此勅令ニ抵触スルモノハ皆廢棄ニ屬スヘシ

第二十二條 此勅令ハ農商務卿ヲシテ執行セシメ且ツ法律彙纂中ニ記載スヘキモノトス  
千八百五十一年九月三日レリゼイ、ナシラナールニ於テス

大統領 ルイ、ナポレヲン、ボナパルト 手署  
農商務卿 エル、ビユフエー 奉

以上



此新命令ニ採用シタル選舉法ハ激烈ナル反對  
論ヲ招キタリ第一番ノ投票ニ於テハ五年以  
來營業稅ヲ拂フトコロノ諸商人ヲ以テ選舉會  
ヲ形作スルモノナレバ若シ其數總選舉人四分  
ノ一二達セサルトキハ(其之ニ達セサルト殆シ  
ト常ナリ)商業裁判所商法會議所及ヒ職人勸  
解所ノ集會ヲ以テ選舉ヲ行フモノトス然リ而  
シテ此ノ如ク職人勸解所負ノ手中選舉權ヲ  
置クトコロノ法規ハ最モ稀代ナルトナリトス  
何トナシハ營業稅ヲ拂ハサルモノト雖モ亦職

人勸解所負タルヲ得ルモノナレハ則チ第二番  
ノ投票ニ於テ職人ハ第一番ノ投票節持タサリシ  
トコロノ選舉權ヲ有スルニ至ルヲ以テナリ  
此命令第十一條ニ依レハ商法會議所ノ職掌ハ  
第一工業上及ヒ商業上ノ事實及ヒ利益ニ付下  
問ヲ受クル片ハ之ヲ調査シ其意見ヲ政府ニ上  
陳シ第二工業及ヒ商業ノ繁榮ヲ増殖スルノ方  
法ニ付諸關稅及ヒ諸入市稅其他商業ニ關スル  
諸般ノ法制上ニ行フ可キ改良ニ付商業若クハ  
工業ニ關スル諸工事ノ執行及ヒ諸工署ノ編制



譬へハ諸海港ノ工事、河川ノ運輸、郵便、鐵道、等ニ  
付其意見ヲ呈出スルモノトス  
此職掌ハ同時ニ製産及ヒ工術諮問會議所及ヒ  
商法會議所ノ職掌ニシテ兩會議所ハ共ニ商人  
及ヒ製産人ヲ以テ組織セラル、モノトス製産  
及ヒ工術諮問會議所ハ製造ノ諸大中心ニ於  
テ設立スルモノニシテ其會員ハ六名トシ此會  
議所、製産總會ニ向テ差出スヘキ委員ヲ任命  
スルモノトス商法會議所ハ殊更ニ商業ノ盛ナ  
ル都市ニ於テ設クルモノニシテ九人ヨリ少ナ

カラスニ一人ヨリ多クアラサルトコロノ會員  
ヲ以テ組織シ此會議所モ亦商業總會ニ差出ス  
ヘキ委員ヲ任命スヘキモノトス  
以上ニ記述スル所ヲ以テ見レハ商法會議所ノ  
役目ハ全ク唯々諸事ヲ觀察スルニ止リ、諸般ノ  
議件ニ付光明ヲ與ユル、商業總會、製産總會及ヒ  
立法議會ニ於テ行フヘキトコロノ論件ヲ預装  
スルトノ所ニシテ其議決ノ結果ハ諸卿及ヒ諸  
法制家ノ精神ニ多少有益ナル勢力ヲ及ホスニ  
止マルモノトス實際施行ノ事務ニ付直接ニ関



渉スルナクシテ唯ニ意見ヲ述ヘ、諸事實ヲ驗  
究シ、統計上ノ探究ヲ實地ニ付キ實ニ實際ニ熟  
練シタルモノヲ以テ執行セシムル是レ即チ商  
法會議所及ヒ製産及ヒ工術諮問會議所ノナス  
ヘキ職務ナリ而シテ此等諸般ノ意見、驗究及ヒ  
事業ニシテ其勞余リ屢々無益ニワタラサリシ  
ナラハ此職務タル最モ有益ナルモノナリトス  
不幸ニルナハ單ニ諮問ニ止マルトコロノ會議  
ハ公務繁劇ニシテ急速ヲ以テ概ネ自然ノ法ト  
為シ急激ニ以テ思考ニ善良ナル緩慢ニ屢々代

ハラシムルヲ得サル如キノ時ニ於テハ動モ  
スレハ其會議ヲ廢棄ニ属セシムルノ形状ナル  
モ亦自カラ免カレサル處ナリ故ニアツブヅヒ  
ール府商法會議所ノ如キハ諸商法會議所ノ變  
制ニ付テ一ノ廣告ヲ發シ愁訴シテ曰ク此會議  
ノ權ハ方今全ク地ニ墜チ徒ニ政府施政ノ一害  
具タルニ過キヌシテ恰カモ兒童ノ玩具ニ齊シ  
ク昨日政府ノ下問ヲ受ケ今日之ヲ衆議ニ諮ラ  
ントシ漸ク會負ヲ招集シ得タルヤ否ヤ何ソ圍  
ラン該下問ニ付テノ勅令ハ既ニ發布セラレ其



事件モ亦己ニ完結シタルトハ豈痛哭ノ至リナ  
ラスヤトハ一ガル府商法會議所モ亦諸商法會議  
所ノ特權ハ現今迄死物ニ属シタルトヲ哀シメ  
リ  
諮問會議所ハ其告知其意見其見込其建議ニシ  
テ孰レノ結果モナキヲ見テ屢々落膽セリ然レ  
トモ是レ則チ其位地ヨリ生スル處ノ必定ノ事  
ニシテ其意見ヲ採用セラレサルト云フヲ以テ  
直ニ其意見ハ全ク無益ニ属シタルナリト云フ  
ヘキ哉其意見ヲ提出シタルハ設令直ニ之レガ

採用ナキモ將來ノ為メ光明ヲ與ヘ且ツ善良  
ノ種子ヲ蒔カザル哉政府ノ行為ノ外ニ在ルト  
コロ者ニ對シ新奇ナル行政上ノ勢力ヲ及ボ  
スノ危難ニ陥ルトナクシテ商法會議所ノ意見  
若クハ行為ニ今一層ノ結果ヲ與ヘ得ル哉職掌  
ヲ實行スル為メ一ノ議會ヲ設ケスシテ一ノ  
議會ニ仕事ヲ與ヘンカ為メニ職掌ヲ創設スル  
ノ恐レナキ哉是等ノ事ヨリシテ政府ハ即チ理  
由モナキ干涉ヲ行ヒ無用ノ規則ヲ發行シ無益  
ナル特權ヲ與ヘ專賣ヲ發コス等ノ事アルナリ



此危難ハ近時即チ諸高法會議所ニ於テ其變制  
ニ付テノ討議ノ時ニ於テ現出シタルカ如シ該  
會議所ノ多ク就中ルアン府及ヒセンマロ一府  
ノ商法會議所ノ如キハ其職掌ノ空虚タルヲ歎  
シ千八百三十二年ノ命令第十四條ヲ擴張セン  
トヲ希望シタリキ

右第十四條ハ千八百五十一年九月三日ノ命令  
中ニ再用シタルモノニシテ商業ノ利益ノタメ  
ニ開設シタル諸設置設令ハ生絲介量改所ノ  
如キモノハ商法會議所ヲシテ之ヲ管理セシメ

タリ該生絲介量改所ハ生絲温氣ノ度ヲ定ムル  
ノ目的ナル試験場ニシテ此試験ヲハ商法會議  
所ノ検査ニ任スルヲ以テ要用ナリト認メタル  
ナリ該改所ノ專賣ハ此検査ノ手数料ヲ占有ス  
ルニアリリヨン府セン、テイチエン又府及ヒ其  
他数多ノ都府ハ此等種類ノ設置ヲ所有シ巴里  
府商法會議所モ亦其一ヲ設立セントス  
彼ノ所謂危難ハ則チ爰ニ在リ而シテ此危難ハ  
今日ニ在テハ些少ナレドモ若シ商法會議所ニ  
於テ千八百五十一年ノ命令第十四條ニ廣大ノ



註解ヲ與ヘ特權ヲ以テ工業上ノ商務ヲ企ツル  
ニ於テハ此危難ハ頗ル大事トナルヘシ何トナ  
レハ工業上ノ商務ハ是ヲ人民一個ニ放任スル  
ヲ以テ常ニ利益ヲ見ルモノナレハナリ  
今前論ヲ概言スレハ之ヲ要スルニ商法會議所  
及ヒ生産工術諮問會議所佛朗西現行編制ノ實  
ニ世ノ裨益ヲ為シ得ヘキ者ト云ハサルヲ得ス  
然レトモ此裨益ハ諸般ノ事實ヲ探究シ諸般ノ  
議論ヲ豫裝シ之ヲ畢竟スルニ人知ヲ開明セシ  
ムルニ止マラサルヲ得ス斯ク商法會議所ヨリ

陳呈スル所意見ハ政府今一層之ヲ採用スル  
トキハ一般ノ幸福最モ大ニシテ政府モ亦之ヲ  
採用スル義務ナルモノト云フヘキナリ

レヲン、セイ 誌

宇川盛三郎譯







